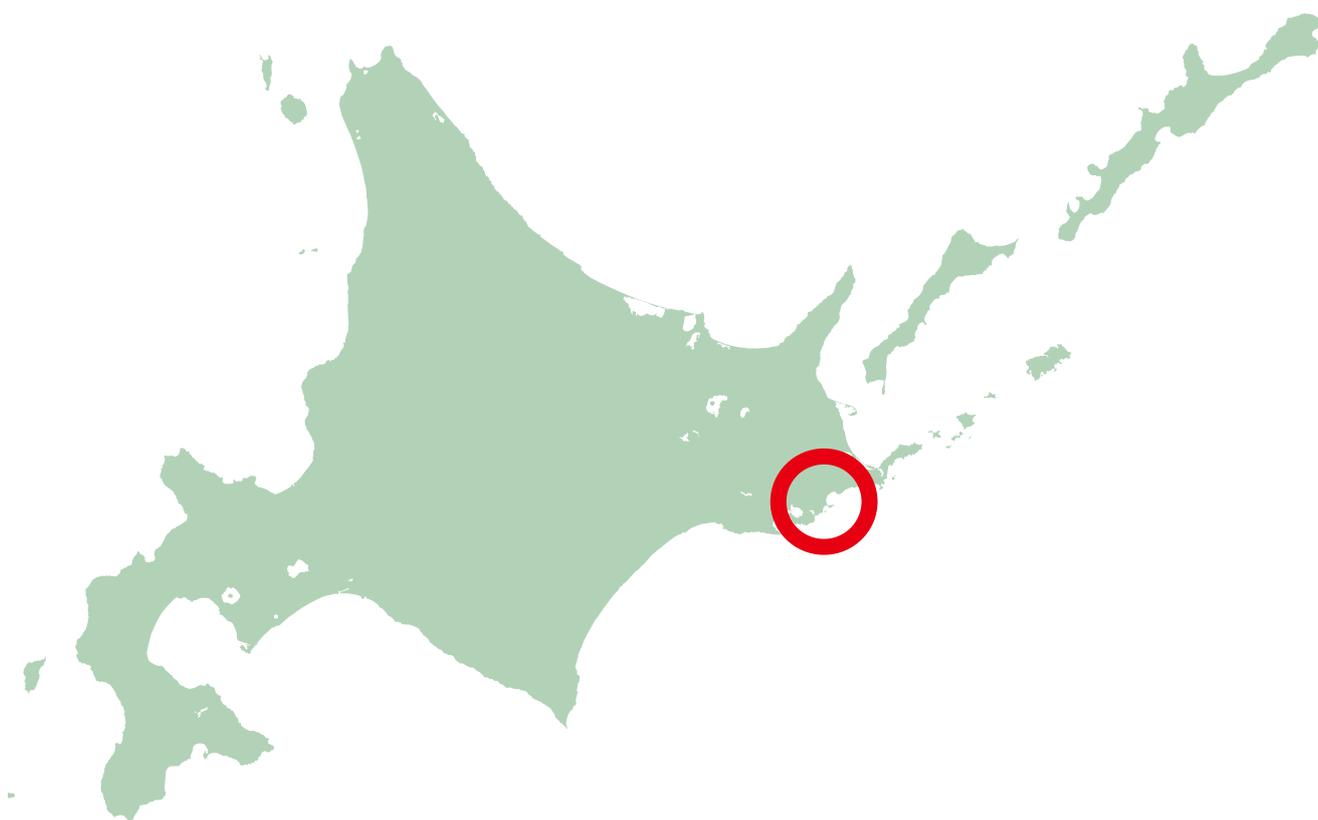




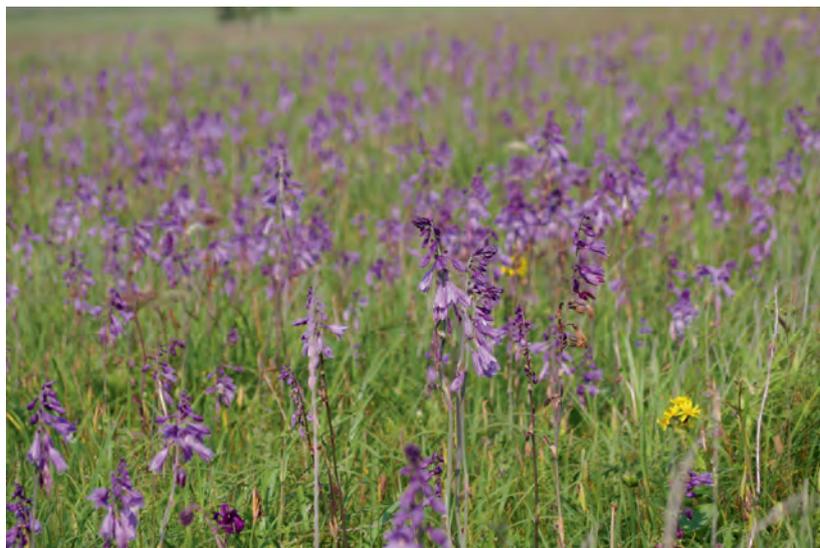
あなたにぴったりの湿地は

きり たっ ぶ

霧多布湿原



こんなところ ↓



仲の浜木道の
タチギボウシ群落
(中間湿原)

次に多様な湿原の様子を体感できる場所を紹介する。まず霧多布湿原を横断する③「MG ロード」。ここでは6月中旬～下旬、ワタスゲの群落を見ることができる。見渡す限りのワタスゲを見ると、この湿原のほとんどが中間～高層湿原なのだ実感できる。また海岸側の一部に木の杭が並んでおり、馬が放牧されていた歴史を感じることができる。なおこの道を挟んだ湿原のほとんどが国の天然記念物エリアなので、ここからは足を踏み入れないほうが無難である。

霧多布湿原センターの近くにある④「やちぼうず木道」では、霧多布湿原のなかでは少ない、低層湿原を見ることができる。おすすめの季節は4～6月。ゴールデンウィークあたりからウグイスなどの夏鳥のさえずりを聴きながら、ヤナギの芽吹きや、「ヤチボウズ」(→p.51)と呼ばれるカブスゲの大きな株を見ることができる。



やちぼうず木道のヤチボウズ (低層湿原)

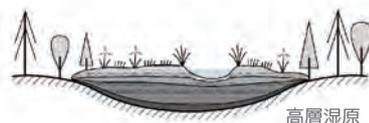
霧多布湿原の海岸側にある⑤「琵琶瀬木道」と⑥「仲の浜木道」は、霧多布湿原を代表する中間湿原を楽しむことができる。7～8月にかけてエゾカンゾウ(ゼンテイカ)に始まり、ノハナショウブ、タチギボウシ、ノリウツギと次々に入れ替わる花の群落が見事で、霧多布湿原が「花の湿原」と呼ばれるゆえんである。

河口に近い⑦「奥琵琶瀬木道」には、水辺に面した場所ではヒメウシオスゲやウミミドリなど、名前からもわかるように塩性湿地の植生が広がる。また水辺から離れた場所にはガンコウランやツルコケモモなど、高層湿原を間近で見ることができる。

以上、霧多布湿原を知るのに最適な場所を挙げた。百聞は一見にしかず。ぜひ霧多布湿原を訪れてこの豊かな湿原を体感して欲しい。



奥琵琶瀬木道の
ウミミドリ (塩性湿地)



高層湿原